

911.5
工
夏

名寄 凡季

合類俳諧忘貝 夏



王権現
ヲ崇ム

人丸供

十八 和哥ヲ好ム人此日
妻ク哥會ヲ修ス

淺草祭

十八

日淺草寺境内三社権現之祭也三社ハ松熊濱成竹成兄弟
三人ヲ祭ル此日同処ニテ表ヲ舞ク賣ル故ニ表市ト云

御舟拭

十九

候依釈迦ぬまの御舟拭ニ
寺僧各白巾を以て拭ふ

御彩供

廿一 弘法大師ノ御彩供ナリ御
室東古寺ノ裏ヤノ寺院ニ

修ス

千本念仏

當朱雀通北限舟岡南 千本引接寺間廣堂
念仏ニ堂前ノ普賢象櫻花ノ開クヲ期トス

寺僧一枝ヲ折テ諸司代ニケンヌ即米三石五斗ヲ賜フ是ヲ以テ七ケ日
念仏ノ料トス一説是法良元毎年刑死ノ人ノ為ニコレヲ修ス故ニ諸司

代ヨリ施
采セラル

峯入

春ナリ秋ハ季ニツレル頃逆ヲ断ルニ不及○春熊
野ヨリ葛城大峯ニ入吉野へ出ルヲ頃峯入ト云本

山方聖護院 勤之秋吉野ヨリ入テ熊野へ増
出ルヲ逆峯入ト云當山方三宝院勤之

吉野全式

子守勝手ノ両神
與本堂へ渡御ア

リ仁王會修行事畢テ神輿還幸ニ
花會式ト云テ日數サダカナラス

夏 秋名く夏ハあゆみ
あしなとさる

補 炎帝

帝○淮南子南方火也其帝炎帝其佐
朱明執衡而治夏云、炎帝大庭氏也

補 祝融 神○月
令貴楚

祝融火正祝甚融明也
夏時物氣甚明也

朱明 尔雅夏為朱明
注氣赤而光明

昊天 字彙
夏曰

昊天孔安國曰
元氣廣大 梅天 初夏天ノウルハレキヲ云
具ニハ熟梅天黃梅天ト云

和清天 詩古

ニハ清和ノ熟字ニ顛倒シタル
ハ清和天皇ノ御名ヲ避ルニヤ

四月

三才門

卯月 卯のむ月
の畧なり

余月 亦雅疏釈
四月為余

己月 建寅為
正月故

四月 為己
花殘月 補 純陽補
乾月 為乾
正陽月 陽德用事和氣
皆陽為正陽月

孟復

補 首夏

補 初夏

仲呂 律○月令
律中仲呂

益友

節

小滿節

四月ノ中ニ物コ、ニ長メ
小少盈滿ヲ得

布苴干ス

漆搔

幸辰州
九月出

卯の花降

卯の花の以
此雨と云

四月

氣取門

鶴

大サ鳩ノ如ク黒色短尾尖嘴本紅末黃ナリ脚長メ正
青常ニ田沢ニ鳴ク夏月上饌トス味美ニ方目鳥ト書

子規

くまら 死出の因長めつる
冥途を 和

狀類雀鷓而色灰黒腹白有鷹影翊羽亦有白斑口中赤或有小冠毛脛掌蒼
色其前指二有連膜後趾二與諸鳥異膜ハ肉内ノ薄皮ニ田長トハ田家ソ
ノ鳴ヲマナテ農
更ヲ與ス故ナリ
諫教を 和
三加豆古宇鳥狀杜鵑ニ似テ
チト赤色ヲ帶フ腹白メ黒班ナ

四月

十二

シ脚指亦ニ前ニ後
偽テ杜鵑トメ賣ル

考入考

行子

葭原雀

葭割 心字割
葦鳥

蚊喰鳥

丰浪州蝙蝠ノ異
名トス尚考ヘシ 葭割

葭割ノ附子

鳥の巣立

葭割

クヲ河
鹿ト云

常苗

苗ヲ以テ引
音ヲ教ルニ

蝙蝠

カハホリ一名蚊
喰鳥 秋ノ末尋
ク集リ鳴

藏者也亦
食門ニ出

初狸

餅子

蟻子オナジ蟹ノ
ナリ味美ナリトゾ

蛭

和ニ
三

ナメクシ
ナメクシ

鹿袋角

長二三寸
不尖不堅

蛭

蜘蛛の子

蛞蝓

蠅虎

初蟻

蚯蚓出

子子

四月

葭木門

卯の花

垣見州

雪見子

數種アリ山空木箱根卯木唐空木
三葉空木共ニ山中ニアリ人籬垣

ニウ、ルハ
山空木ナリ

新樹

若葉

新樹ニ或人俗謡ト云フ亦ニ以散
多葉あり海保ニハ此木と通公

此批判
と云々

殘花

海老

若葉の花

牡丹

北日州

鐘州

寫字子

海老子

名取子

よろひ子ハ灰白
艸ト云説あり

芍薬

忍びす子

和名衣比須久須
里一云又ミクス

リ又魚
好艸也

燕子花

白よき

鳥ノ啼時サケバ良花ト云トソ
和ニ杜若ヲカキツバタト訓スル

ハ非ニ杜若ハ藪生薑トイヒ
テ其花黄或ハ白色ナリトゾ

山藤

岩綿

葉似藤而小
花紫或白

ハ別種
ハリ

二葉草

かさね草

二葉草かさね草ハか茂の葵
あつへをあらにや紗葵と

ハ別種
ハリ

苔の花

葉一して花状のめき
ものを俗に苔花と云

笋

篠ノ子

風車花

花八瓣ニメ單葉蒼碧色其形
風車ニ似タリ又白色アリ

踊花

高尺
許壘

四月

十八

チト赤ク小葵ニ似テ兩々對生シ葉ノ本ニ小花ヲ開ク白色ニ微赤
ヲ帶フ人笠ヲ著テ躍ルニ似タリ故ニ名ク又統斷ヲ以テ踊艸ト云

玉苧芭蕉 玉苧芭蕉 葛の葉のよを
玉苧芭蕉 葛の葉のよを
玉苧芭蕉 葛の葉のよを

若楓 三四月若葉紅色映満山五六
月復青葉深秋其葉黃落
復木立 茶挽子

雀麥 田野ニ自生ス苗葉小麥ニ似テ弱ク小ニ穂細シ小児穂
粒ヲ丸ノ上ニ載レハ旋回スルヲ茶臼ヲ挽ガゴトシ

沙參草 寶珠花 約陸孝子氏 鬼臼ノ一種葉ハ莖麻ニ似テ
面青ク背紫ニメ細毛アリ葉

ノ下ニ莖ヲ附ク一花ヲ開ク狀鈴銀ノ如ク倒ニ垂ル青白色黃葉ニメ中
空シ黃子ヲ結フ風吹ケハ不動風魚レハ自ラ揺ク云々和産寶銀花ノ狀

狀相似テ異ナリトソ又狐挑ユキノレタ
灯と云りのを宝銀とす未詳
席耳竹花 雪の下氏書 瓜茄子花

合盛花 一名長 長春 青莖長蔓硬刺葉小於薔薇
春花 而花深紅千葉

鷲尾 こやき子 紫羅傘 謝子 於燦花氏

葉莖氏 烏扇 本艸ニ射干烏扇ヲ以テ一物
トス未詳但花形カハレリ 鴨足草 車浪

艸ニ本綱ヲ引テ虎耳艸ト
一物トス註コ、ニ畧ス
煙草地 煙草苗 柿の花 三月

塔ノ下ニ註ア
リ見合スヘシ
粉花 木高五七尺葉箱根卯木ニ似テ團ク皺文アリ
花初ノ淡青色後正白小花
檜葉テマロク二三

寸又一種小粉團花々形相似テ
小少白シ大サ寸半許ニ不過
木桶ノ如ク小ク

如ク刺多シ
白蒼ヲ生ス
桐の卷 白桐ハ蒼白ク圓桐ハ蒼紫ニ種氏ニ蒼ヲ先ニ
シ葉ヲ後ニス○梧桐又青桐ト云古人詩哥ニ

詠セシハ
曼ナリ
列珠 木高サ丈許稍ニ細氣條ヲ出ス綠色ナト葱茨ノ莖
似タリ葉細ク小シ黄花ヲ開ク緑豆花ニ似テ繁

ク莢ヲ結フモ
綠豆ニ似タリ○一種木ノ屬
薔薇花 垣ニ這テ花白黃
紅紫數色百葉ハ

出六出
アリ
病葉 己くくわと後シ本の葉
路

薔 四五月茂リ
秋穂ヲナス
紫菜 ぬふし 又ナハ云フ滑繩ノ
畧氏沼繩ノ畧氏花

黃白子
紫色
花ヲ開キ實ヲ結フ又兼人參ノ葉ノ如
二月苗ヲ生ス枝ヲ分チ一枝三葉四五月細黃

シ氏又金宝花ヲオニタカラント云
其人草 花四瓣色艶畧粟
ニ數メ小ニ異俗

呼テ虞美人艸トス
蓋ケシノ別種ニ

山苜の花 高ハ二三丈徑一二尺葉ハ梅嫌
木ニ似テ尖長ニ寸許花野梅ニ

似テ朶稍長ク齒ル実ヲ結フ狀小蓮子ノ如シ菜類ノ苜ニ似タルユエ名
クトソ又花桿ノ花ノ如ク白シ香モ桿ニ似タリ賣子木ニシヤノ木ト云
ハ非
葉櫻 櫻の実 さくさく切 白丁香 高

三尺小白花チト
丁香ノ気アリ
厚朴の花 蒼重瓣白葉紫心全ク木蓮花ニ
似テ大ニ香數歩ニ聞ユ和ニ壯

丹花ニ似テ淺紫
紫色大一尺許
櫻前州云紅蓼花ノ如
階前州云紅蓼花ノ如
シ疑ラクハ七八月カ
中有之苗高サ二三寸葉大サ
開キ三月子ヲ結フ青大豆ノ如ニメ円ク播リ生ス外色青ク内紫黒色小

味チト酸シ
見剥皮食フ
麥秋 麥苧 麥菜 新麥

麥粉 補麥の松風 又二年艸年越艸茶
笠艸等ノ異名アリ

三丈葉ハ椿ニ似テ狭ク小白花ヲ開ク細子ヲ結フ其
木最堅硬ニシテ扇骨トスルニ堪タリ故ニ名ク

三丈葉ハ椿ニ似テ狭ク小白花ヲ開ク細子ヲ結フ其
木最堅硬ニシテ扇骨トスルニ堪タリ故ニ名ク

三丈葉ハ椿ニ似テ狭ク小白花ヲ開ク細子ヲ結フ其
木最堅硬ニシテ扇骨トスルニ堪タリ故ニ名ク

リ蕨ノ芽泥中ニアリ竹鞭ノ如シ長キハ丈余
ニ至リ蔬トナシテ茹フ俗ニ蕪絲菜ト呼フ
若根 本書ニカクアレ共ニ蓮ノ字
ナクテハ通シカクカランカ
苜の茎 石薺 石

ニ叢生ス其根甚繁シ紅花ヲ開ク節ノ上ニ自
ラ根鬚ヲ生ス物ニ盛テ屋下ニカケテ愛ス
生薑の芽

青木花 和三樹叢生高五七尺葉似檉葉而厚潤有大鋸齒四月有小
花紫黯色形色不堪玩結子如小棗秋月赤熟

文字摺花 和三綖摺艸高五六寸葉如初生稻
苗而細軟三月開花如穗而色淺赤

四月

服食門

更衣 朔 白蜜 面白裏同ク又寒ケレバ拾ノ
下ニ小袖ヲ着スルヲ云トゾ 孫奴

初給 給 經汁 塩烏賊 京畿生烏賊暮秋ヨ
リ冬ニ至リ身出ツ

四月

三十

春夏ノ間塩鳥賊ヲ
用ニ北地ト異ナリ

塩船 氣形門ニ註ス

新茶 古茶

茶造

茶撰

茶酒

四月

公式門

孟夏五旬

朔 旬とい天子臣下に所領を以て政をまるといふは、
日 にこそぬくの儀あり内をよみてく造られては

く、やうく南殿のついでに、
政とのそみうとをハ万機旬とハ或ハ朔日の旬とハ即せうとて、
のをハニ孟の扇の拜 公事ニ二献の儀ありと云ふは、
旬といふは、公事ニ二献の儀ありと云ふは、

平夜をうり、
ひはふ、

更衣 公事によりハ衣の、
喜松の簾と云

開向加茂詣 申 中 加茂卒のお日へ主人ハ車をとて地下
申 庭上の若殿を白ぬり所帯神宮を祀や

洗摩祭 朔 近江坂田郡所祭御食津神稻食ヲ掌リ五フニ依テ婚ヲ
日 ナス女祭祀ニ鍋ヲイタ、キ神ニ奉ル再嫁スル者ハ二

枚三嫁スル者ハ三枚ヲ用ユト云々俊頼ノ説ニハ女ノ男レタル數ニ隨
ヒテトアリミソカニ逢ル男ノ數ニハアラザランカコノ神更中絶セシ

ヲ今ハ小女紙ニテ鍋 増 柳さす 柳ハ月形りて、
ヲツクリマ子ビス 忌とれハハ加茂の神を祀る忌

大津祭 江州大津四宮祭神四坐小日枝
大日枝氣比小禪師右四坐在同

廣瀬祭 日 四 増 龍田祭 日 四
所ノ神更ニ申日山王祭ニ又

和州廣瀬河合村ニ坐ス和加宇加賣神コレヲ大忌神トイフ同州龍田ニ
坐ス天御柱國御柱神ニ坐コレヲ風神トイフ祭ノ日ハ廢勢ニ使ハ前ノ

日タツ大忌風神ノ祭トイフ年穀ノ豊 蒼摘 八 敷山女人常ニ此
ナルヲ祈申サル、ニヤ七月四日同シ

ナルヲ祈申サル、ニヤ七月四日同シ

七社八月詠社祿谷社三宮宗像
社衣手社四大神十一月日
增一廿四子
當宗祭 上 河内同志組
西 郡當宗神社

二坐當宗忌寸出自後漢獻帝四世孫山陽
公後也公まゝ午日住之川 十一月日
遷供養 自十三日 和州
至十四日 當麻

寺十四日遷供養アリ中將姫ノ忌日也此未迎引接ノ法更ハ惠心僧都行
ヒ初々玉ヲ来迎ノ本尊又二十五并ノ假面ヲ用ユ

増
土塔會 十五 天王寺南大門下土塔塚ノ前ニアリ祭神牛頭天王
日 昔ハ六祭礼アリ今ハ天王寺々僧堂司承人等出仕神

夏法會ヲ行フ次ニ仁王經法
則舞乐アリ是ヲ土塔會ト云 安居 四月十六日前安居十七日以後五
月十五日ニ至リ中安後六月十五

日 後安 増
千坐子 十六 三井寺之鬼子母神ハ一千子アルヲ以
居ト云 テ祭ルニ一千ノ數ヲ供スル意ニテ千

團子ト云リトソ諸
人參詣群ヲナス 檢現祭 十七 下野国日光御本社神輿
神輿一説日光神現白張百人上下着九人麻豆羅神々 増
白張百人素禰九人山王

組伊国和歌山ノ御祭礼或ハ雜賀祭
ト云神君御祭礼ニ行装嚴重ト云ク 山王祭 中 申日ニツアル
申 八下申ヲ用フ

近江坂本上ノ七社ハ山王推現大國主大神二宮ナ多羅神 及金尾羅神聖
真子八幡大并八王子灌頂大法王子客人宮去来諾大神十禪師地藏井ノ

尾不勒氣比至觀音下八王子虚空藏王子宮文珠聖女如意輪下ノ七社ハ
小禪師跡勒龜樹惡王子變新行華吉祥天岩滝井才天山末廣利支天劍
官不動竈殿大日以上九一社傳云山王祭ハ七年詣サレハ悉ク見益シカ
父レト云リ午日八王子ノ拜殿ヨリ八王子三宮ノ神輿ヲ落ス神輿解敷
十人並居中ニテ請トリ山坂ヲ下ス是ヲ神輿落レト云未日二宮八王子

三ノ宮十禪師ノ神輿ヲ大政所ニ移レ奉ル暮ニ及テ霄宮落レト云一ア
リ前ノ如シ申日山門衆徒棧鋪入天津四宮ヨリ柵ヲワタス一神輿船ニ
ウツシ奉ル一辛崎沖ニテ神 日吉祭 古ハ四月廿五日 本書ニカク有
供ノ式ノ一其外甚事繁シ 今ハ五月十四日 テ又山王祭ノ

處ニ日吉祭ヒアリ年浪州ニハナシ公 増
幸ニ中申日桑村大山咋村十一月日
らセリ春日の社ト 吉岡祭 中 公子に中子日
申 中畧及祭ト多

亦修之中畧祭日宦家人各被懸葵蔓於衣 葵祭 中 酉日ニツアレハ下酉ヲ用ユ
領賀茂地人各挿是於髮 葵蔓 紀事上加茂中酉日葵祭貴船
ヲ諸蔓ト云フ

流歌の日 御生トハ玉依姫ノ別雷命ヲウミ玉フ日ト云美心實ハ申ノ
日生レ王ヒ酉ノ日ハ以レヲ祝奉ル儀用云勅使初葵ヲコレ

ニカザレ玉フ御簾ニカ、ルモ此日ノ葵也祭トバカリ云モ加茂ニ限レ
リ下賀茂御祖 玉依姫上賀茂別雷神祭ナリ又國祭ト云ハ前ノ日ニ今絶

四月三集

タル
ニヤ
臺傘鋒
等出ス
花供ト云ハ金堂ニテ学侶方ノ僧某師會ヲ行ヒ花ヲ供ス
ルノ日ト大師ノ御衣ヲカヘル日ト同日ナルカユエナリ

増
漢縁糸

中 祭神ニ坐伊弉並尊火産灵尊神輿清凉寺
ニアリテ乘日ノ送迎モ此地ヨリナス屋

蒼供 日 一 紀州高野山宝亀院ノ住持代々此莫ニ頼ル
ヒハ女色ノ御衣ヲ弘法大師へ奉リ換ル是

三夏波門

涼一 扇 茶扇 風燈 燈居

晒搦 川猪 築 友の月 經夜

明安き松友の松 霞菴 滴山 夏山ノ形 答ヲ云フ

麩香 香囊ナリ源氏薰衣 香百枚香ナドアリ 白ハ袋 是麩香カヘン本火に燃ハ
手長ク母在の用とナク

汗 汗拭ハ 繭 繭搦 繭樹深山ニ生ス葉女
貞ニ似テウスシ光沢

アリ四五月細白花ヲ開キ子ヲ結フ其木
皮ヲ剥キ水ニ浸シトラカレテ之ヲ巻ク

雁鳥 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

生經 生節 堅硬ナラ サルヲ云 津 鱒ノ子ナリ西国
ニ和加奈ト号ス

蜻蛉 蠅 蚊 蚊帳 帟帳

蚊柱 羽蟻 夏虫 哥ニハ堂蟬ナトヲ詠レト俳
ニハソレニモ限ルヘカラス

蚕 蚘 根芋 下ケ帯 附

茂リ 葉柳 根芋 載イモ根芋ハ須
伊本是ナリ

飯鮓 瓜 甜瓜マクハウリ也此外
瓜韓瓜等アレハ味劣ル

茄子 初サ加子 于鰻 于鱧 水鱧 本字ハ
海鰻也

レヲ照射ト云子ラヒカリモ同シ又矢ニ火カ
 ラサシグシテ鹿ヲ同チカクヨセテ射ルニ
 也 君虫 増シスミ 水馬 又云塩賣此虫味甘似
 也 故曰錫賣群游水上 蛇脫衣 増
 ヲ游メクリテヤマス隻紗輪 蛇脫衣 増
 ニ水スマシ是ナリトソ 鹿の子 増
 蠶子 酒醋
 上小

五月

草木門

菅蒲莖

アヤメハ百 増
 病ヲ除ク

蓬莖

藥摘

藥日

日五

競駢

宗祇抄ニキソヒカリスルト
 ハ四五月ニ蒸狩トテスルニ
 之戲又競狩ノ更トモ此日百州ヲ取製メ金
 瘡犬咬腋臭等ノ蒸トスルニ功能アリトソ

石菖

岩あや免
 歳時記曰端午
 日四民園百州

合歡花

上半ハ白ク下半ハ肉紅散垂メ糸
 ノ如シ葉夜ニ至ルトキハ合ス

百合花

姫百合

鬼百合

袂百合

深山溪間ニアリ繩ニスガリ下リ一株
 ヲトリテ袂ニ入故ニ名ク

黒百合

特多百合

車百合

葉チトヒロク對
 生メ車ノゴトシ

鹿子百合

白

夕紫点

皇帯本

若草正地膚正カク
 黄荳苗蔬トメ茄フ

荳莖蒲

長き根

兼永

六羊首蒲根合せ左一丈
 一尺右一丈二尺のよ

紅荳

葉ハ小薊ノコトシ荳ハ大薊ノ如レ
 晨ヲ侵メ荳ヲ采ル此荳初テ末ヨリ

用キ次第ニ本ニ咲ニ咲ニ隨
 テ摘トル故ニ末摘荳ト云

藻の花

藻刈

藻刈舟

萍の荳

大ナルハ蕨ト云中ナルハ荳ト云小
 ハ水上ノ浮萍トソ小白荳ナリ

高菰苳

陸

ニ荳且見ト云モ
 荳ノトソ

杜鵑荳

五月踰跖

和山踰跖山
 石榴杜鵑花和

名阿伊豆々之
 今云左豆木

羊蹄根

羊蹄荳

羊蹄ハ根ヲ以テ名ク葉ハ長尺余
 牛古ノ形ニ似タリソノ味淡キ故

シブクサト云夏ニ至テ小黄花ヲヒラク其根大黄ニ似タリ和俗大黃ト
 云莖花共ニ黄赤ニ種アリソノ實枝ナカラ振動カセハソノ音ギシク

ト云

竹植

十三 晋書竹醉日亦竹迷
 日は日栽竹必活

黄孫荳

孫王

トモ書ク及名アリ畧ス和ニ今無識者惜哉云々○本邦薔花ト但俗ノ
称スルモノ證シカタシトソ但和ニ一州一莖ニメ其頂ニ葉六枚
アリテ花ヲイッホクサ 時珍曰原野甚蔓苗高一二尺許其莖微方葉對
ヘルナシ 夏枯草 飾生有細齒背白莖端作穗長一二寸穗中兩淡
紫小花○穗ノ形矢筒ノ鞞ニ似タリ故ニ名クカ
出ニ黃孫花ノ名ヲ一おもてんははてりて別ち出す
標花

雲見草 せんごんのむ 本綱葉密如槐而長三四月開花紅紫色芬
香滿庭○和俗誤テ梅檀ト呼フ梅檀ハ檀

香ナ 薏苡仁 苗ハ黍ニ数ス葉ノ間枝ヲ分穂ヲ出シ實ヲ結
フ其梢ノハシニ小黄花ヲ開ク花ト實ト別ニ

夏菊 朝菊 鮮菊 朝露草 葉
年浪草ニハ七月ニ出ス可シ

昔ニ似テツヤナシ花ノ色紫碧初テ綻ルトアチカイ
紫陽花 四葩花ニ

萱草 風土記ニ妊婦其花ヲ佩レハ男ヲ生ス故
相穀の花

柚 甚香 金柑 枳殼 春生 乳柑 橙
密柑 橘 小白花甚香シ文和赤柑ニコレヲ花タチ
ハナト古哥ニヨメリ云々コノ外ニモ

温州橘 仏手柑 朱槿 等葉花皆似チ
大小有ノミ 盧橘 枝ニ

リ長葉硬厚兩趺尖リ白花ヲ開ク花繁密
花柑子 在實ハ此ニ似ル
清香數歩ニ聞ユ實ハ密柑ヨリ大ナリ 柑實ハ此ニ似ル

の柑實ニたぐへへ
下毛花 葉レハ此ニ似ル
ナリ咲ク 推の花 其葉極ニ似テ鋸齒細ニ強ク冬モ亦葉落
ス細白花ニメ白丁花ニ似タリ微香アリ

金花 此州藤生ス凌冬不凋故名藤
冬三四月開花長寸許一帯兩

花ニ瓣一大一小如半辺形長葉花初開者葉弁俱色白經
二三日則色變黃新舊相映故呼金銀花氣甚芬芳

中身莖似蔓而堅強植生有刺葉似栲葉秋開黃花結紅子○
其花の葉

俗倭山飯末ト云西国野人用葉包麥餅故名五郎四郎柴

虎鬚草 一名燈心草 栗花 つつり草
本書ニハ斯ア
リ年波草ニハ

入梅ノ次ニ墜栗花トアリテ註ニ紀夏日立春後
菽植 時珍曰
赤俗作

菽豆赤皆莢 荊蒟 荊葱 荊
和ニ三六月細花ヲ開穂ヲ
ナス莖葉ヲ蔬トス赤莢

五月

ハ高三四尺 厂来紅ニ似テ
美ニ庭園ニウエテ愛ス
マヅリヒユ 馬齒莧ト書布地而生葉至細微六七
月開細花結小尖實又云景天艸ノ強

夏大根
覆盆子
蔓艸ニ一枝五葉白花ヲ開四五
月實○樹莖高四五尺小白花實

天葵
蔓莖黒ク葉櫻桃ノ
葉ニ似テレハミ三
四月苗ヲ

花石榴
紅黃
白三

太藺
石竜節長四五尺莖
端開小穂花結細實
早松茸
羊牛房

實豆
蠶豆ニ書其莢上
ニ向フ故ニ名ク
南天花
和ニコレヲ庭中ニウユレハ火
災ヲ避ヘシ甚シルニアリトソ

蚊屋釣艸
根細鬚ノミニメ子ナシ引ニ拔易シ其莖三稜アリ小児中
間ヲ裂テ引擴ケ以テ蚊帳ヲツルニ比メ戲トス蓋此香附

子艸ノ雄ト云ヘキモノ平京畿ノ児童專ラ此戲アリ花ハ六
瓣ニメ粉淡紅色アツマリ開テ傘蓋ノ如シ和ニ三稜トアリ

蕙
葉蘭ニ似テ潤薄ク
縦理アリ三四月開

白及
葉蘭ニ似テ潤薄ク
縦理アリ三四月開

白花不香又紅紫色也○時珍曰蘭艸蕙艸一類ニ種トイ
ウハ和俗ニ云蕙ニアラス秋開花香甚シ不可混トツ

山梔子花
白花ヲ生ス皆
六出香甚シ
若竹
天南星
澤

有之三月生苗似荷梗其莖高尺以未葉如蕒蕒而岐相抱花似蛇頭黃色七
月結子作穗○根円白ニメ形老人星ノ形ノ如クナルヨツテ名ク本名

虎掌和名ノハ
有白花本名紫
又

玉簪
玉苗
玉苗舟
田草取
細物蒔

稗蒔
胡麻蒔
拒蒔
稷ト黍ト一類ニ種
ナリ丹黍ト云キ拒黍

粟
稷
稷ト黍ト一類ニ種
ナリ丹黍ト云キ拒黍

柳氏和ニ單山吹ノ如シト云ク
而心有黃鬚鋪散花外若金絲美容

水芙蓉
ふよふよも水の花
池見系
補玉玲瓏系

五月

アリ神前ノ門外ヨリ鳥居ノ方へ馳ル其裝束ハ腹
巻陣羽織ヲ着シ一參ニシテ止ム
在山城国紀伊郡深草山之南祭神舍人親王○神輿三基遊行社家著甲冑
乘馬供奉是蒙古征伐早良親王飯陣ノ粧也供奉著甲冑始自斯神更云々

御玉會 九 奉波草ニナシ公更ニ六月十四日祇園御玉會あり○
日 コノ會ハ昔ハ九日今ハ當月十五日今宮祭ナリ

室祭 十三 在播州室津大社祭神同洛東上加茂同所之氏人西入下
日向於播州而司神更云々遊女十二人三日潔齋ニテ神更

ニ出内五人男子ノ姿トナリ鬢ヲ剃リ男鬢ニメ金襴ノ上下ヲ着ス笛ニ
人鼓二人太鼓一人残七人下盤一人天冠ヲイタキ蒲黄ノ水干ヲ着シ
七人共ニ幣ヲカメテ禱
歌ノ役也迹国ヨリ集ル
今宮祭 十五 在山城国愛宕郡紫野所
祭午跃天王午時神輿ニ

基相殿宮各出旅所相殿宮一説愛宕宮也神幸日有餅十二本長保三年五
月九日被近坐疫神紫野京師衆慶行御灵會例祭五月九日今時用十五日
住吉河田極 九八 神田ヲ殖ル故ニ神更アリ相傳フ神功皇后三韓ヲ
征シ玉ヒ御飯陣ノ時長門国ヨリ植女ヲ召テ五穀

農業ノ更ヲ世ニ廣クシ玉フ後世末葉乳守ノ遊女ト成ス因テ
泉州堺乳森妓女ノ内牟李明タル女三人来テ今日神田ヲ植ル
御扇岡極 九八 是ハ伊勢山田太神宮ノ御田植也宝前ニテ神更修行
日 ノ扇アリ是ヲ以テ田ヲ仰ク風情ヲナス是ヲ御田扇

ト云北八日トイヘ庄日不定下旬日ヲ撰テアリ當日称宜敷葦御子羅子
勒之神田ハ高倉山ノ岩戸ナリ東替豐官崎ニアリ是御供田ノ御子良子
早苗殖ルマ子ビラナス神人技ヲ修ス一鳥居ニテ神乐哥ヲウタヒ笛鼓
ニテ舞フ高倉山ヲ過テ鳥居ノ所ニ至ル煮糲ヲ着タル者大扇尺許ヲサ
サケテ參詣ノ諸人ニイタカシム内宮モ同シ更ニ御子良児ト云ハ社
司五位ノ娘ヲ上ケル是ハ經水ナキ丹ニツキ先ツ九戈ヨリ十二戈許迄
ナリ太神宮へ御供調進ノ役ニ但一人役ニ下リ候テモ不嫁一坐扶持付
候ヨシニ是ハ古ノ齋宮ノ代リナラン山田ハカリニテ宇治ニハナシ
小原さ 九八 大原志在丹波国桑田郡祭神伊弉並尊蚕粮耕作
日 ヲ守ラセ玉フナレバ百姓最可信也三月九日ハ
春ザシトテ糸諸社丹ノ小石ヲ申請テ持帰リ飼屋ノ棚ニ置ケバ嵐ノ
害ナシトテ此石ヲ猫ト称ス九月九日ハ秋サシトテ右ノ石ヲカヘシ
納ム云々此祭禮ヲ神供ニモ客ニモ商物
祇園御輿洗 晦 入夜神輿
ニモスルニハニ世俗耳酒祭ト云トツ
輿三基中素盞烏尊号大政所西稻田姬号少将井東竜王女号今御前神輿
出神輿屋入拜殿少将井神輿出南門臨鴨河辺古濯河水於神輿而洗之故
称御輿洗今雖無其儀依
旧而称之然後安拜殿

六月

三才門

水無月

風行月

常夏月

且月

六月為且月云

子余坊

遯月

二陰浸長陽當退避

以神月

六月得己則曰且月

もぬぬえやく

季夏

林鐘

律○林鐘聚也言

小暑節

大暑

六月 冰室

貞位曰冰室のハハ月日より九月迄中て秋

にま

冰賣

簞 竹進ナリ暑

竹夫人

抱か

脚馬

竹几又曰竹夫人抱籠俗謂

涼風

風蕙

風の香

風の白

呂氏春秋東南之風曰薰風本書

泉

水の水

清水

日傘

三伏

夏至後

為初伏四庚為中伏立秋後初庚為末伏金氣伏藏之日也庚者金也夏ノ火ヲ秋ノ金氣ニテ伏スルナリ

奇峯

新井

井ヲカヘテ暑

納涼

門涼

檐涼

川涼

涼舟

四糸河原涼ハ自六月

雨乞

雲ノ水瀉

土用于

虫干

虫拂

白雨

暑

暑

補極暑

補炎天

神澤暑

土ノ氣潤フ故ニ蒸

白くへ

土用の風とも又

富士雪消

十五日

霍乱

土用

水賣

温風

月令季夏之

秋隣

秋迎一年波

夏深 夏別 夏追

夏復 夏隔 夏限 夏過

秋待 不來秋 等アリ

六月

四十三

六月

氣形門

遼雲雀

雲雀

六月毛ヲカヘテモ
フク速ナラヌヲ云

羽さつ雀

海月取

蛾

燈蛾トモ
火蛾トモ

金電子

蝉

蟬

蟬

蟬

蟬

蠛

小虫ニ似ル乱暴者也
爾雅注云磴則風卷則雨

絡線

形曹虫ノ如ク鳴壺
ギスト云ニ似タリ

腐中成螢

令月

ニハ季夏トアリ氣候ニテハ
五月節ヨリ六日ナルヘシ

六月

草木門

百日紅

猿すづり

本名紫薇擡其皮則自動故名怕瘁花和三猿滿
トハ一類二種ナリ百日紅ハ冬葉凋ミ花アリ

猿スヘリハ四時
凋ミス花ナシ

瞿麥

形見草

光々復

盛リ

ケレ

石竹

あじろ

大和撫子ハ紅梅色ニカサ子
ハ色々の有アリ川原撫子

撫子ハ形スナリケル名ク藤
撫子ハ色にナリケル名ク

菱の苞

小白花ニ武陵記四角三角
曰菱西角曰菱一名水栗

浮写

和名奈万井和三慈姑其苗俗名於毛太
加其根名白久和井草葉小白花ナリ

蒲穂

花状

又似

浮草

凌霄苞

蔓ヲ高樹ニ延テ
生ス葉尖リ長ク

花牽牛花ノ如クニメ跋五瓣ヲヒラ
ク稀黄色ニ細点アリ秋更ニ赤シ

麻

麻の苞

檨麻

青苧

夏引の糸

檨麻ハ苧ノ様ニ似ル云
一即白麻ニ白麻ハ九折

長一葉ハ胡廣の糸の如ク
系差リテ状檨花の如ク

麻苧

竹皮取

蒲刈

眼皮

春生苗柔莖青緑葉莖羅而不円末尖六七月開
花似剪羅花而刺齒淺具色肉赤也俗説云達磨大

六月

四十四

師九年面壁時欲不眠自剪上下脛棄之地生
此草其花肉赤色以為似脛因名眼皮矣
路旁中 水沃ニ生ス長尺ハ
カリ花形白鷺ニ似

玉簪

釣子

風茶

花葉蘭ニ似テ葉レ
十ハ微香アリ小白

花ヲ
石薺 藜品々 石薺ハ石上ニ叢生ス
其根紫シ紅花ヲ開ク
赤草 一名
蔓草葉深綠色有
光沢五切而微如

藥生山沢高七八寸一莖一葉如
橐吾而薄小夏日其莖葉為真紅
時計草
虎尾の蒼 高

楓葉花形似鉄線花而十瓣淡青色莖如菊本黑中白
末紫又心抽一莖異下諸花午時開花故名時計草
尺余葉長三四寸末窄尖厚皺有鋸齒莖端著花
細白如穗似獸尾故名一種淺紫色亦碧色アリ

薄微似干猪葉而面青背白至風則能翻恰如及掌婆
婆而作色其花似豆花大成穗紅紫色實亦如黄豆莢
菅の花

蜀葵花
帝徳草 葉花莖形狀頗草綿ニ似タリ冬
根ヲトリ水ニヒタレ蘇汁ニテ

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク
紙ヲ
瀝ク

六月

服食門

氷餅

民間餠餅
以是比氷

一夜酒

此酒在公事に於て造れ
とあるハ信するに造司六

月影より七月廿
より毎三まゝ

水飯

水菓子

水ノ粉

補洗飯

干飯ふとのたを
つけよする

于飯

猫用カク浸
冷水喫之

補引飯

淡茅酒

豊後国ノ製ナリ麻地酒
肥後南都ヨリモ出其造法
土カブリ云

米類米等分ニ合製メ冬月寒水ヲ以テ是ヲ醸シ土中ニ埋ミ草茅ノ穀ヲ以テコレヲ覆ヒ埋ムトニ夏月土用ニ至テ則土中ヨリコレヲ出スニ既ニ熟セリ

心太

こころまん

石花菜ヲ煮テ凍ト成ス

葛水

増砂糖水

切麦

冷麦

冷汁

老冷

復切茶

六月始宇治茶人新茶ヲ新壺ニ盛リ常ニ茶ヲ賣処ノ良賤家ニ贈ル是ヲ夏切茶ト云冬開口ノ壺ハ盛復ノ間所々山林清涼ノ地ニ置故ニ夏中用ノ茶先ツコレヲ贈ル故ニコレヲ夏切茶トイフ

老梅

梅ひき

梅つけ

補梅干 梅剥ハ皮肉ハ

剥カケ晒乾テ

海辺ハ作り身ヲ潮ニテ幾度モ洗ヒ酢ヲ用ヒス食フト云ヘト龍師ハ只夏日舟ハケラニ水草山

梅酸トスルニ

梅師ハ只夏日舟ハケラニ水草山

館ニテモ新キヲ調スルヲ云リ

蒜の根 和俗土用ニ入ル日蒜及小豆ヲ食スレハ

瘧疫ヲ辟ル

楊梅

核小而堅其色初青味酸逐日紅甜紫熟而美

李

林檎

俗云頻カクシ和ニ与林檎一類ニ種樹実皆似林檎而大有赤白青三色

总和布

とさう

海松

なのりそ

とさう以下ハ六月廿月年

以夏栞にとさう栞のりそハ正月女

増和布苧

于瓢むく

補新干瓢

香露散

茗荷子

本名叢荷ナリ

青番椒

六月

四十六

山王祭

十五日

在江戸祭神三座国常立每熊野王子宮氣比宮子才辰午申戌ト隔年神輿渡御鎧武者并遊子出ル

博多祭

十五日

在筑前国那珂郡祭神中殿櫛田姬命或説大若子命右牛跃天王左天照太神官右三神相殿今日修祭祠十六日

志波寺祭

十五日

讚州寒河郡志波寺本尊十一面觀音六月十五日ヨリ十七日マテ三日夜ノ間房前公ノ為ニ彼海人ノ墓所ニ於テ水テ階上ニ立テ其甲冑ニ皆姓名ヲ書懸ヌユエニ領主ノ家臣劣

巖嶋祭

十五日

在藝州佐伯郡宮嶋祭神市杵島姫神田心姫神湍津姫神例祭自六月十五日ヨリ十七日申刻管絃ノ船ヲ衆出シ外宮ニ押渡リ酉刻ヨリ管絃供僧伽陀等畢テ瀧度シ亥刻頃大鳥居ノ内ニ漕入迄国ヨリ群祭ス

伊勢祭禮

外宮十六日

内宮十七日被行之京師ヨリ御奉納ノ神宝ヲ人群泰スルニ十人ノ祿宜其外廣前ニテ松明ヲ夕テ祝詞ヲ捧ク今日出家円頂ノ者ヲ許メ参詣ナシムト云リ

御靈祭

十七日

大坂祭神三社中本神官右源正靈神御靈政長持四神鉾御弓鉞隨身御鉄猿田彦太鼓長柄廿本鞞弓十肩先馳士幸鉾長持四神鉾御弓鉞隨身御

有頭涼

十九日

盲人納涼燈神輿八神此錦蓋神馬神主六角行

糸納涼

下鴨ノ社

司六月後ヲ修ス十九日ヨリ晦日迄増諸人参詣納涼ノ遊トス林間ニテ酒食ヲ売ル鞍馬竹切

稻荷祭

廿二日

振州西成郡惣社座摩太神宮祭神生井神福井神細長井神右之三津井神ニ竈神二座名波比祗神阿須

座摩祭

廿二日

振州西成郡惣社座摩太神宮祭神生井神福井神細長井神右之三津井神ニ竈神二座名波比祗神阿須

神輿

八神

此錦蓋神馬神主六角行燈神輿八神此錦蓋神馬神主六角行

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

神輿

八神

此錦蓋神馬神主六角行燈神輿八神此錦蓋神馬神主六角行

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

御洗詣

御洗詣

遠方人来会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

橋立祭

九五 丹後切戸之文珠会同橋立祭橋立明神本
社豊受大神左大河大明神右八大竜王

天神祭

九五 在大坂西成郡天満崇神天満天神遊物車水陸共
渡畢神輿出干戎島之御旅所行還川舟數万挑灯群集

遊船亦
魚比類

住吉御後

晦 今朝神輿一基到堺御旅所社司六七十員
騎馬供奉入夜神輿飯住吉堺地人每手点

炬送神輿又大坂地人同点火而迎
之送迎相連恰如白晝是謂火替乎

住吉踊

大坂名所國弦之住
在村より諸方へ出

了五月廿八日公見候こ出て踊
了云く六月ノ一後勅スヘシ

御後川

晦 夏神樂

川社

大枝

茅橋

補葺

形代

杉枿

名越枝

荒形枝

麻葉流

枝枿

夏枝

ミソキト云ハ素尊ノ髪ヲ又キ足手ノ爪ヲ枝給テハラヘ鬘ト
ナシ玉フ故ニ身ヲソツト云フニ○川社ハ河の流ニ掛レハ

立てまを控りて篠竹を柵にかきてそれニ神代を飾り是を川社と云○
大枝ハ石段ト云く朱花門ニ築りて枝を飾り之六月十二月二夜あ
り○葦葉も第の輪と云しりの之葦葉を以て製是天竺一円相の間
をとえぬより枝へうり火剋金をすぬく事○形代ハ人形を控

物ハ人形を控りて吾身にそへて万の災殃を掃りて流をおこ○名越の名
ハ友の略也○荒和枝ハ菅折とて主上の所とけの寸法を竹の葉とて
まゝ其枝を折あてぐんそよをりとりしを菅折の式と云ふの枝所持お
まゐるありよにこよの所製未と云く是即所枝の具也葦葉和葦の所枝
とりしへきを器して葦和の枝とりしや○麻葉流も増
ハ麻葉を切て幣とす。在ニ枝枿と云ハ麻のりあり
紀叟六月晦日夜上賀茂神夏有音楽則修枝中暑今日六月能丹波矢
田太夫勤之是謂御手代今此能一坐七人交勤其藝故世謂七人猿乐

秋 叙名秋ハ明々なり
之秋天ハ清明ニ

少皞

帝○月令其帝少昊金天氏注少皞神○葦收金官之臣
白精之君淮南子少昊其佐葦收

白藏

尔雅秋為白藏注
氣白而收藏萬物

金商

秋五行屬金五音屬商
故有金風素商之稱

旻天

字彙秋
天曰旻

天仁覆慈焉
謂之旻天

明景

秋景曰朗景
朗明義同

六月七月

日一

和學
大
第 6423
受入
36 3. 14

七月

三才門

文月

美任抄に文にツナとて文とをひくぬ
文ひろけ月といふを暑きりと云く又ふつきと云ふ

七夕月

女郎花月 夷則

律○月令廣義夷傷則法也言金氣始蕭萬物于此凋傷猶被刑戮之法

相月

尔雅七月為相疏七增
月得庚則曰鑿相

蘭月

蘭秋トモ

立秋

節

けの秋 今秋の殊

初秋

補新秋

孟秋

增 涼月

月令孟秋之月涼風至

增 親月

此月諸人詣親墳墓故曰親月

處暑

七月ノ中ニ處上声止也暑氣止息也

初涼

新ニ涼シ

井戸ぐ

○雨乞

朝茶湯

朝良ノ茶湯ノ例ニオコル

初嵐

山气ヲ

七夕

二早

早合

早祭

祭糸

江次第西北机上挿金針七銀針七件針別有七孔以五色糸澁合貫之

